



成果指標				
成果指標	受給対象者数			
指標設定の考え方	本事業は、対象者への支給事業であることから利用者の数を指標とする。			
区分年度	24年度	25年度	26年度	目標27年度
目 標	3000	3000	3000	3000
実 績	2596	2573	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	今後も制度の周知を適正に行い、受給対象者の支給漏れがないように、情報提供等については、適切な対応を図る必要がある。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	制度の周知を広報などにより行い受給対象者の支給漏れがないように適切な対応を図る必要がある。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮る。
意見、課題	評価委員会抽出事業

行政評価委員会の答申

<p>外部評価 (行政評価委員会)</p>	<p>・成果指標は利用者数ではなく、支給漏れ人数の減少とした方が良いと思う。・押さえる点は、支給対象者を完全に掌握し、それに続く支給漏れをなくすことである。支給を辞退している人をつかむのもいいのではないか(※支給辞退者は皆無)。・国の法定受託事務であり、当然必要な事業である。制度の周知徹底と支給漏れのないよう徹底すべき。・成果指標は、現行の支給対象者数でもよいが、目標の3,000という数字が実態に合わないのなら、見直しも必要だと思う。・子どものための手当であるので、制度の目的や主旨も踏まえて、逆に拡充・充実できる制度にすべきではないか。・児童扶養手当給付事業の不正受給者をピックアップすることと、この事業の支給漏れ人数をピックアップすることは同じものさしではないので、その辺が分かるよう表現しておいてほしい。</p>
---------------------------	---

経営者会議の最終判断

<p>事業の方向性</p>	<p>現状のまま継続する。</p>
<p>意見、課題</p>	